

稲刈り体験開催

ライス・アートの最後の行事である稲刈り体験が10月24日、長島地区の大型ほ場で開催されました。秋晴れの空の下、町民ら約200人が参加し、収穫の喜びを感じるとともに、初夏から地域や観光客の目を楽しませてきた「静御前と義経」の絵柄に別れを告げました。

アートの背景部分は普通稲のため、事前にコンバインで刈り取っておき、残した絵柄部分とその周辺部分の稲を手刈り体験しました。絵柄部分は5種類の稲を植えこんでいるため、鎌を使って種類別に刈ります。子どもたちも大人に教わりながら鎌を使い、1株ずつ丁寧に刈り取り、稲の色ごとに束ねて棒掛けをしていました。

稲刈りを終えた後、参加者をねぎらって振る舞われたのは、大きな鉄なべで作る芋の子八斗汁と、新米と古代米のおにぎり。収穫を祝って上演された伝統芸能の達古袋神楽(一関市)を見ながら、全員が腰をおろしておいしい秋の恵みを堪能しました。この稲刈り体験を通して、参加者たちは笑顔で交流を深めていきました。



1_稲刈り前に参加者約200人で記念撮影/2_稲を刈る人、束ねる人、棒掛けする人など役割分担して作業を行った/3_黄金色の稲採ったどー/4_ベテラン農家から稲の束ね方を伝授される/5_稲は種類別に棒掛け/6_上手に刈れました/7_稲刈り後の昼食/8_収穫を祝って上演された達古袋神楽/9_昼食には芋の子八斗汁とおにぎりがふるまわれた/10_大きな鉄なべで参加者約200人分の芋の子八斗汁を作る/11_無事稲の棒掛けが終わり、本年度のライス・アートは幕を閉じた



地域交流、農業と観光の融合へ

農事組合法人アグリ平泉
代表理事
佐々木 正 さん



事業に取り組む(農)アグリ平泉のメンバー

Q ライス・アートに取り組もうとしたきっかけは?

長島地区に1畝の大型ほ場ができたので、まずは地域で楽しめる行事をしたいと考えました。そして農業と観光の融合を図れるイベントとして田んぼアートが提案され、名称を「ライス・アート」と名付け実施することにしました。

Q 取り組み準備としてどのようなことをしましたか?

山形県米沢市の田んぼアートに視察に行き、赤や紫色などの有色米の品種や、遠近法を用いた構図にすることなど制作方法のポイントについて学んできました。そして実際の田んぼアートを見たときその壮大な景色に圧倒され「これを平泉で行えばみんな見に来てくれる」と確信しました。

Q ライス・アートに取り組んで苦労したことは?

アグリ平泉内で描く絵柄について毎年協議しているのですが、どんな絵が喜ばれるのか考えるのに苦労しています。ただし平泉らしさを出すために、描く絵は平泉に関する人物や歴史にこだわっているのが、今後もそれは続けていきたいと思っています。

また年々絵柄が複雑になっているため、事前準備が大変になっていきます。1回目は200本だった杭打ちが、7回目には2500本まで増えてしまいました。

Q 事業を実施していく中で良かったことは?

最初は地域の人たちが喜んでくれるか不安でしたがイベントを開催するにつれ参加者が増えていき、行事として定着することができました。そして何よりも、年配の人が子どもたちに農業を教えられる場を作れたことが良かったです。と思っています。

Q 事業を実施する際に心掛けていることは?

田植え体験や稲刈り体験の後には必ず周辺地域に伝わる郷土芸能の鑑賞をするようにしています。田植えや稲刈り



田園風景を背景に幻想的に舞う郷土芸能

イベント終了後には地域の交流を図るため、おにぎりや八斗汁などの昼食を提供しています。ほ場で穫れた食材を食べてもらうことで、その美味しさを知ってもらい、地域農産物の消費拡大につなげていきたいです。

また将来的には絵柄を町民から募集したり、物見台を設置して見やすくするなど、事業のさらなる発展に向けて取り組んでいきたいと思っています。

地域の観光名所

国内では少子高齢化、後継者の他産業への流出、農村の過疎化が進み、一方で、グローバル化によって国際競争が激化するなど地域の農業が置かれている現状は厳しいものです。

だからこそ地域が誇る農業を絶やさないように、農業を盛り上げるための取り組みが求められています。そしてその取り組みを継続させるには、そこに暮らす人々の「農業を盛り上げた」という思いと行動力が必要不可欠です。

今回取材して感じたことは、ライス・アート事業を支えている人たちは、自分たちの暮らす地域を愛し、「地域の農業や文化を発信しよう」という熱い思いを持っているということです。その思いが本物だからこそ、地元住民は共感しイベントに参加します。それが結果的に農業活性化だけでなく、平泉の観光資源となり、地域活性化につながっています。

東稲山のすそ野にできた7年目の観光名所。来年はどんな絵が描かれるのか。「大空の下の芸術」を今から楽しみにしています。